

2009年度 流通BMS普及推進説明会(大阪会場)

流通BMS

# 流通BMS導入検討のポイント

－ 弊社の取り組みを参考とした導入への第一歩 －

2009年11月20日

**NEC**

NEC情報システムズ



# アジェンダ

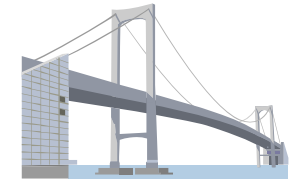
## 弊社の紹介

### はじめに

- I. 流通BMSと従来のEDIとの違い
  1. 流通業界におけるEDIの歩み
  2. 流通BMS導入による環境の変化
  3. 流通BMSで新たに必要となるもの
- II. 流通BMS導入における主な検討ポイント
  1. プロトコルの理解
  2. XML電文を読み解くカギ
  3. 業務フローの整理
  4. EDIシステム選定のポイント(例)
- III. スムーズな導入のために(導入手順の概要)
  1. 流通BMSの導入プロセス
  2. 流通BMS実施までの主な流れ(例)
  3. フェーズ別作業内容(概要)

### まとめ

### 付録 EDIAI Serverの概要(ご参考)

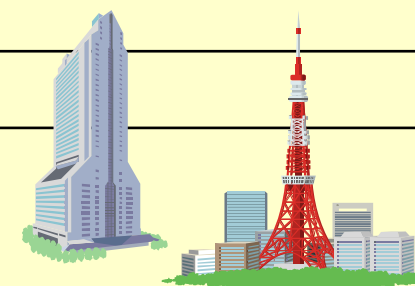
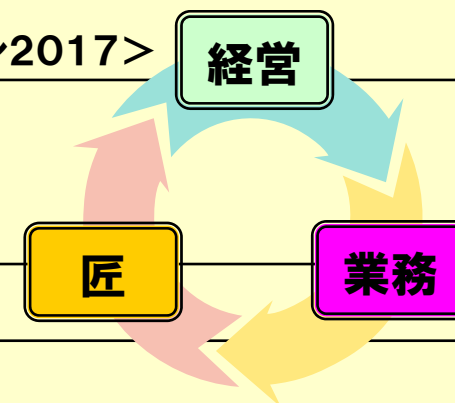


# 弊社のご紹介

NECグループのシステム開発・運用・保守を行う一方で、その実績と経験を踏まえ外販ビジネスを展開しております。  
C&C VAN構築を始め、集配信やEDI領域で培ったノウハウを活かし、お客様にご安心頂ける製品・サービスを提供します。



社 名	株式会社NEC情報システムズ(URL <a href="http://www.nec-nis.co.jp/">http://www.nec-nis.co.jp/</a> ) 人と地球にやさしい情報社会をイノベーション で実現するグローバルリーディングカンパニー <NECグループビジョン2017>
設 立	1984年4月9日 NECのMIS本部より分離独立した日本電気経営情報システム(株)と 中央研究所から分離独立した日本電気技術情報システム(株)が合併
資本金	2億円(NEC全額出資)
代表者	代表取締役 執行役員社長 岡田 裕行
売上高	465億円(2009年度実績)
従業員	1,642名(2009年7月31日現在)
所在地	本社:東京都港区芝3-8-2 芝公園ファーストビル ◎大阪地区拠点:NEC関西支社内 (大阪市中央区城見1-4-24)



# はじめに （本日お伝えしたい3つのポイント）



流通BMSは、2007年4月にリリースされ、既に2年以上が経過しました。新しい標準規約でも、その性質や特徴などを理解することにより、スムーズに検討を進めることが可能となります。

⇒ 進め方の手順は、JCAの導入経験も活かせると思われます！



流通BMSは、お客様の業務効率化と製・配・販3層の全体最適を目指して制定されております。お客様の業務を再確認できる機会と捉え、業務システムとの連動を視野に入れたご検討をお勧めいたします。

⇒ 業務システムを含めた検討で、より一層効果も見える化！

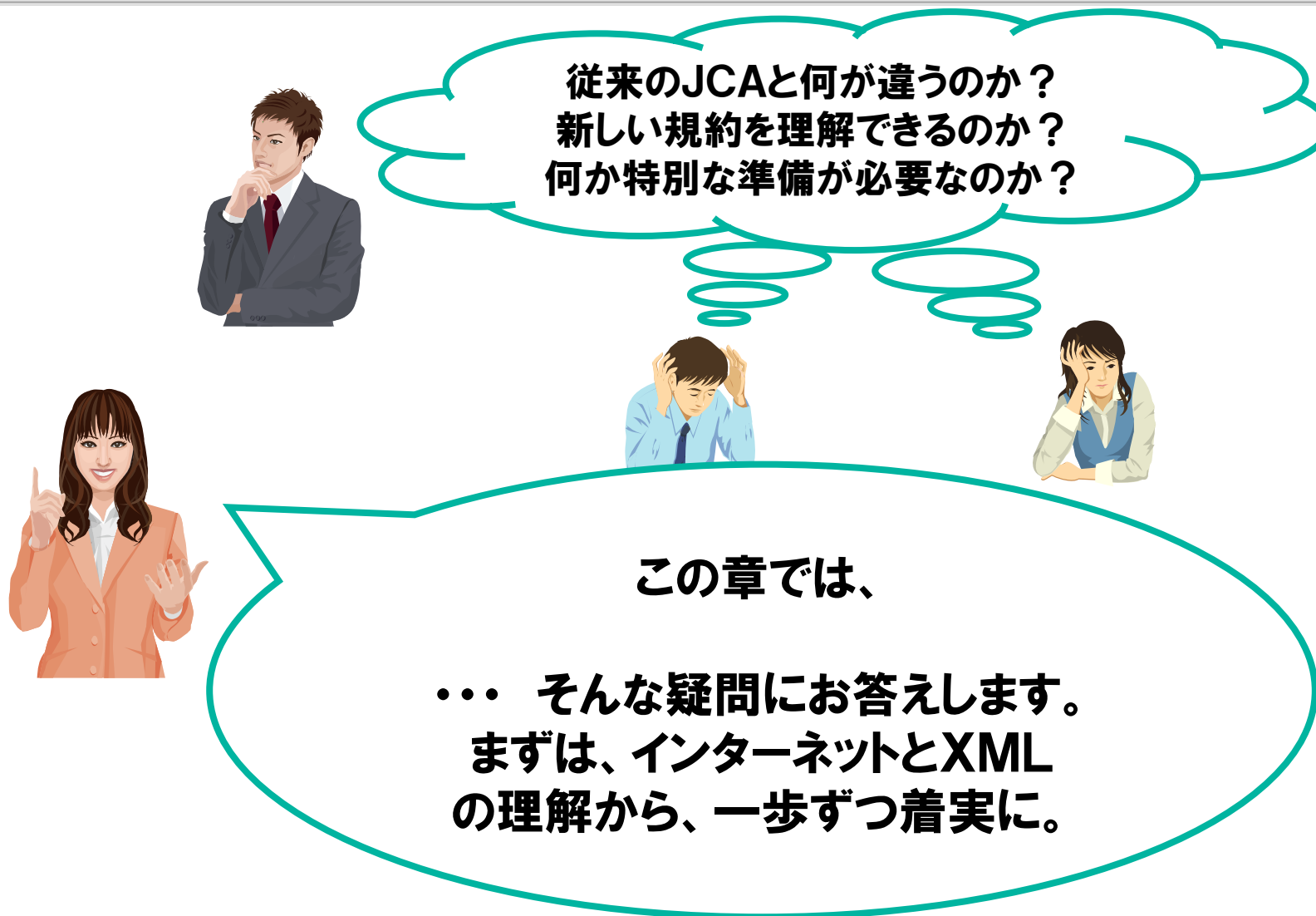


本日は、流通BMSの導入計画立案の一助となることを狙い、参考情報のご提供を目的としております。弊社のこれまでの経験を踏まえ、主なポイントをご紹介します。

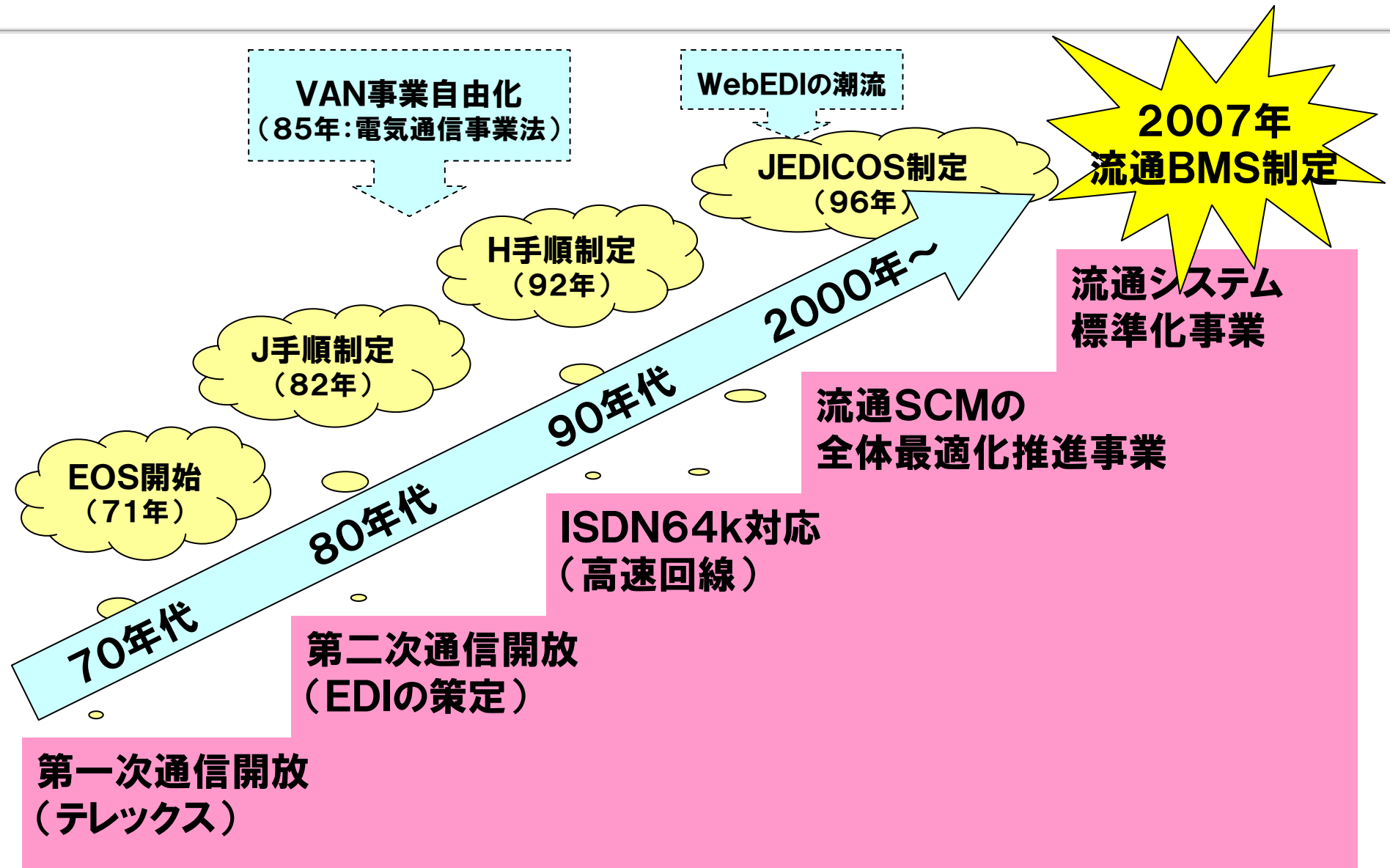
⇒ 新技術も、適切なポイントや留意点を押さえれば難しくありません！



# I. 流通BMSと従来のEDIとの違い

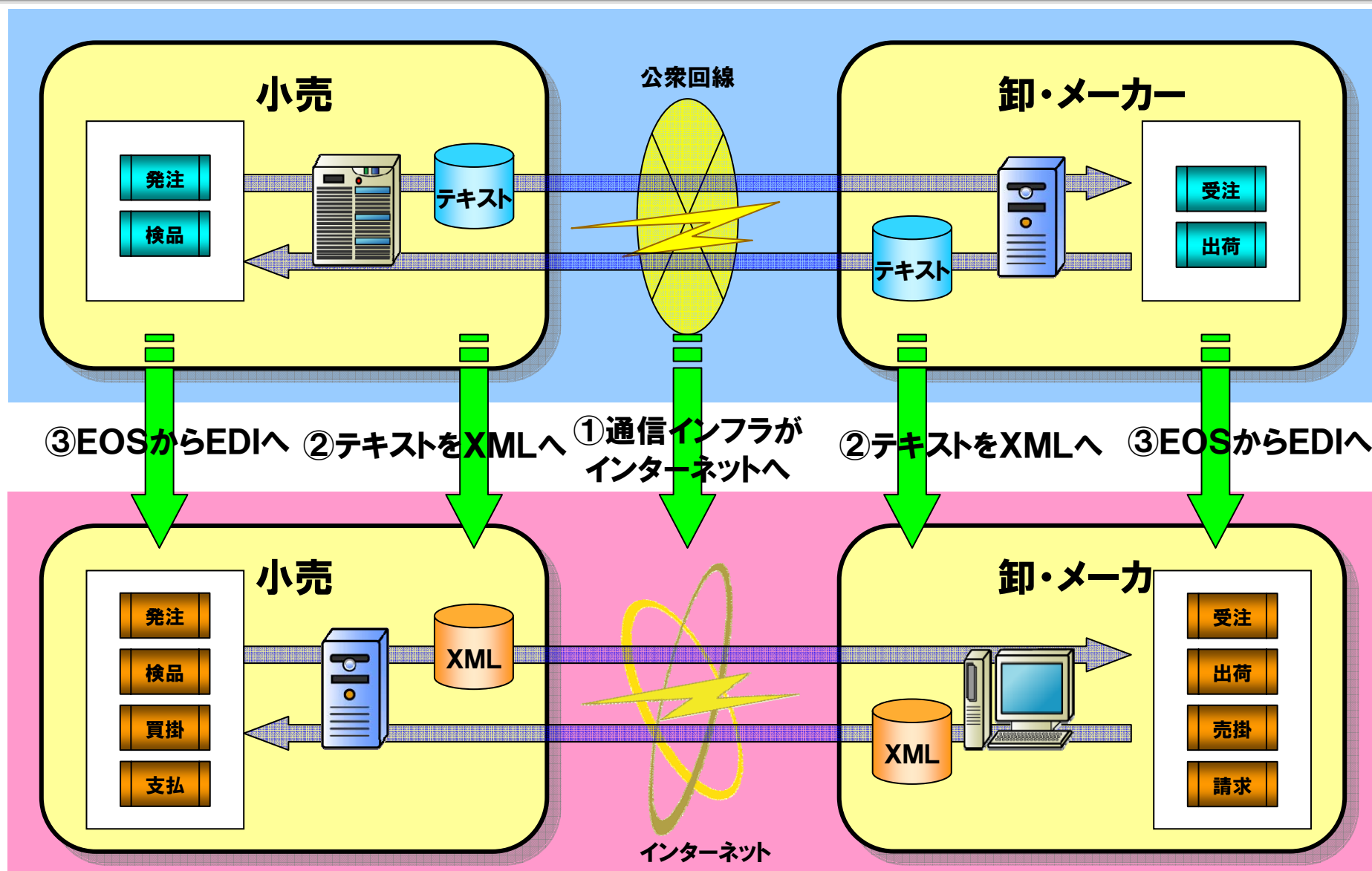


# 1. 流通業界におけるEDIの歩み



※参考文献:流通システム開発センター編『EDIの知識<第二版>』(日本経済新聞出版社)

## 2. 流通BMS導入による環境の変化





### 3. 流通BMSで新たに必要となるもの

**(1) インターネット回線の手配、プロバイダ契約**

- 回線業者、プロバイダの選択。
- 障害対策のため、複数の回線を手配。

**(2) グローバルIP／ドメインの登録申請**

- グローバルIPおよび企業ドメインを取得する。

**(3) セキュリティ対策**

- 外部からの攻撃に対する対策
- 相手の認証(電子証明書)  
流通BMS指定の証明書を使用。  
サーバ証明書、クライアント証明書、署名。

**(4) GLN、GTINなどの準備**

- 企業コードとしてGLNの使用が必須。
- 既にJAN企業コード、またはJANメーカーコードを保有している場合は、それを利用可能。  
※未使用の場合は、流通システム開発センターに申請して取得。





## II. 流通BMS導入における主な検討ポイント



流通BMS導入は、何から始めれば良いか？  
新しい技術に、スムーズに追随できるのか？  
簡単に、導入・展開・運用できるだろうか？



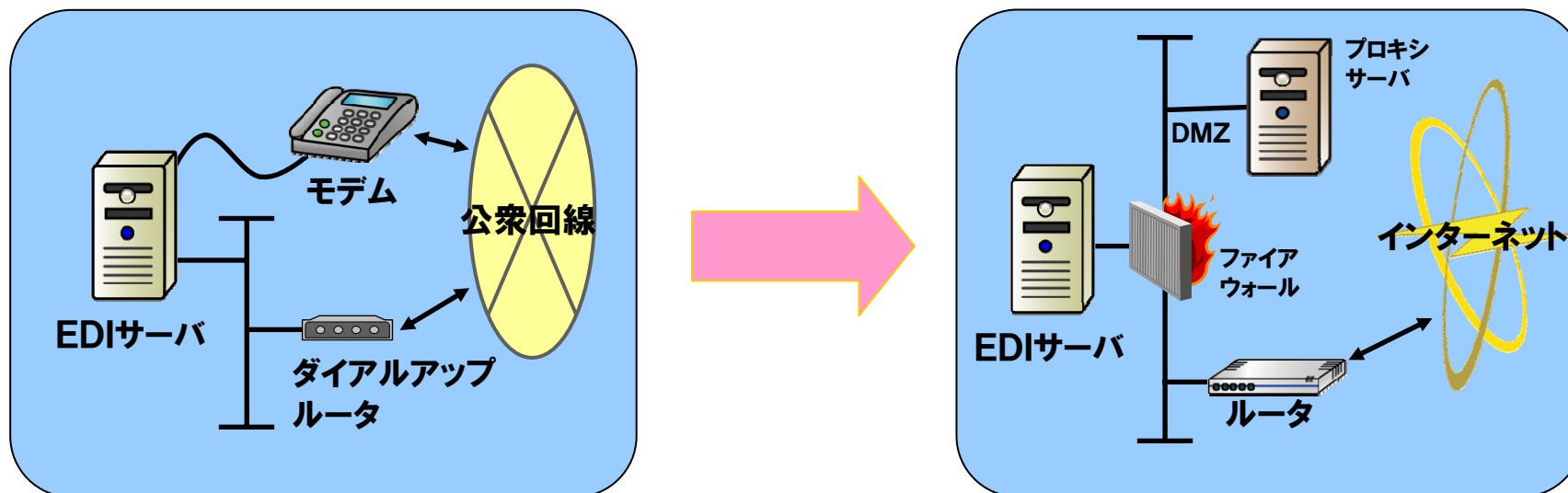
・・・まずは、プロトコルを理解することです。

そして、XML電文の構造に慣れればOKです。

さらに、業務プロセス全体のEDI化と  
自社に適した利用環境の選定が、  
ポイントと思われます。

# 1. プロトコルの理解

## ① 通信インフラがインターネットへ



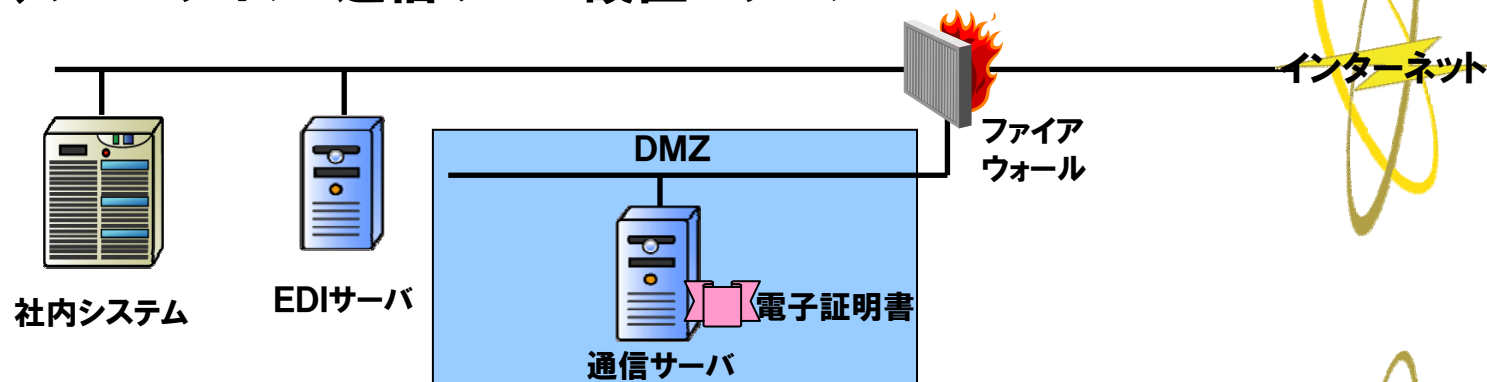
これまでの公衆回線＋モデムとは異なり、新たな機器、通信回線、ネットワーク構成、さらにセキュリティについての検討が必要。

JCA通信手順から国際標準の通信手順(ebXML、EDIINT AS2、SOAP)へ。

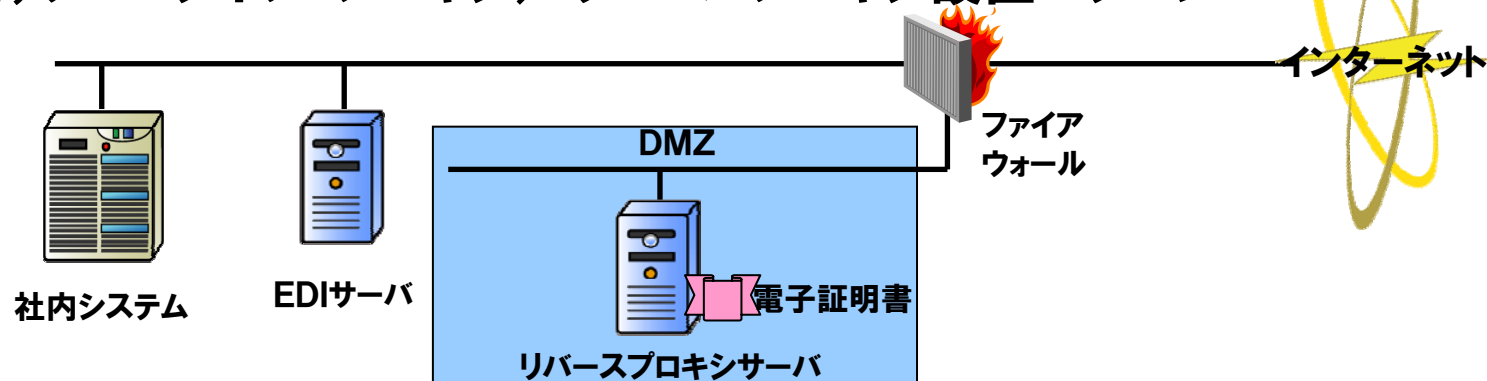
# 1. プロトコルの理解

## ①-1 ネットワーク環境

### (1)サーバタイプ:通信サーバ設置パターン



### (2)サーバタイプ:プロキシ/リバースプロキシ設置パターン



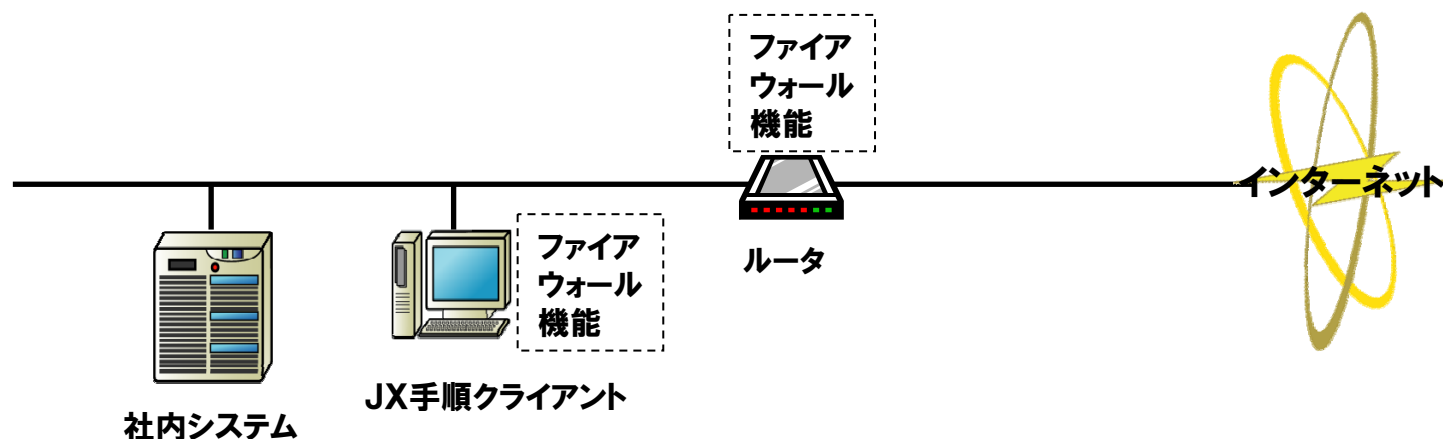
ebXML手順、AS2手順、JX手順のサーバを導入する場合の構成。

自社で社外向けWWWサーバを設置するレベルのネットワーク環境の構築とセキュリティ対策が、最低限必要。

# 1. プロトコルの理解

## ①ー1 ネットワーク環境

### (3)クライアントタイプ:パソコン利用パターン



JX手順のクライアントを導入する場合の構成。

社内システム内のPCがインターネット上のWebサイトを参照できるようなレベルのネットワーク環境の構築とセキュリティ対策が、最低限必要。

インターネット接続設備、またはJX手順クライアントを導入するPCのOS付属のファイアウォール機能を利用することが推奨されている。

# 1. プロトコルの理解

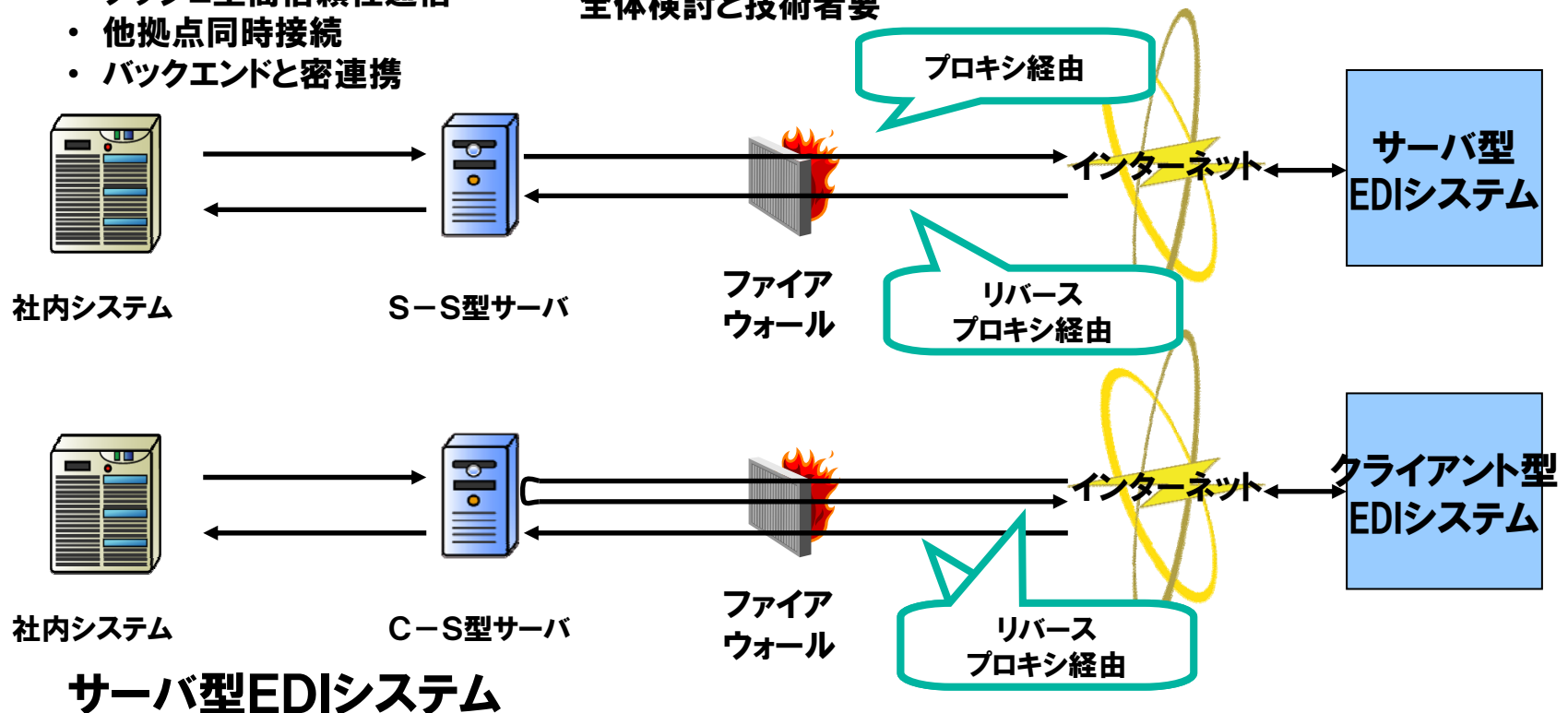
## ①ー2 各処理モデルの特徴

### (1) サーバ型EDIシステムの特徴

通信手順は、ebXML MS、AS2、およびJX手順のサーバ側。サーバは常時稼動。

ebXML MS、AS2では、Push型通信。

- ・ 大容量データ交換向き
- ・ リアルタイム処理
- ・ プッシュ型高信頼性通信
- ・ 他拠点同時接続
- ・ バックエンドと密連携
- ・ イニシャルコスト高め
- ・ 特徴を活かすには、バックエンドを含めた全体検討と技術者要



# 1. プロトコルの理解

## ①ー2 各処理モデルの特徴

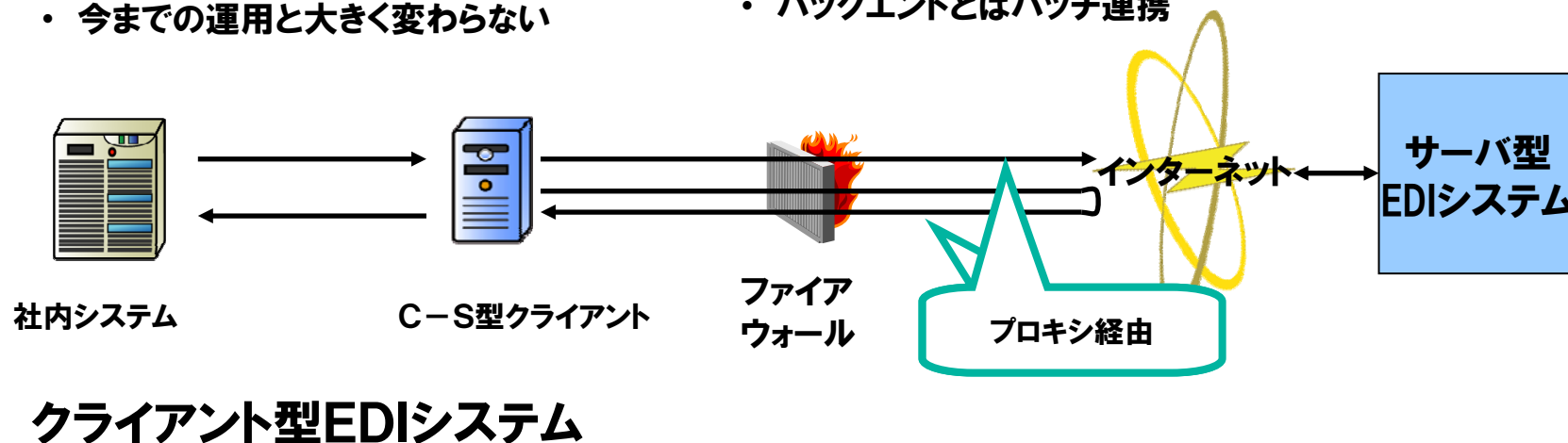
### (2) クライアント型EDIシステムの特徴

データ交換を行うときのみ、随時稼動。

通信のトリガーは、JX手順のクライアント側。

JCA手順での運用とほぼ同じであるため、既存のシステムとの連携が比較的容易

- ・ 少ないイニシャルコスト
- ・ インターネットに接続ができれば導入可能
- ・ 導入が容易で短時間
- ・ 今までの運用と大きく変わらない
- ・ 大容量データ交換には不向き
- ・ 1拠点別に接続処理
- ・ バックエンドとはバッチ連携



# 1. プロトコルの理解

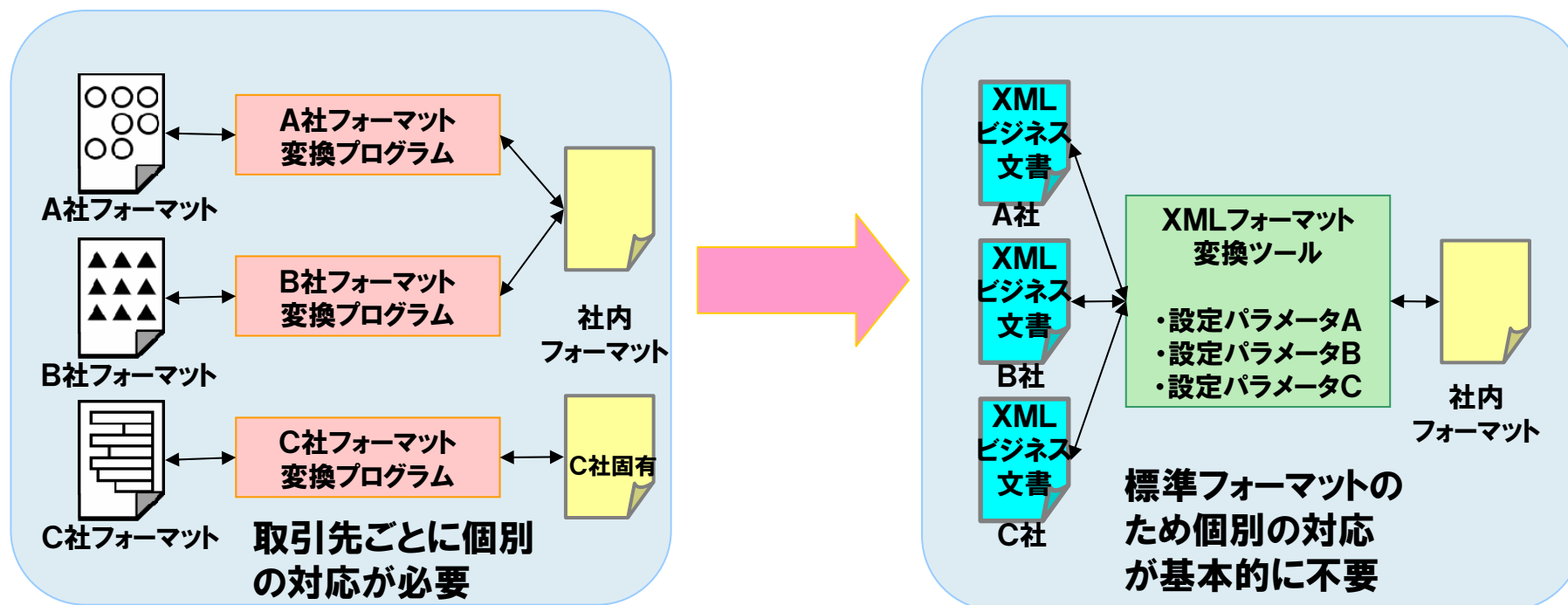
## ② プロトコルの特徴と留意点(まとめ)

プロトコル	特徴	留意点
JX手順 (SOAP-RPC)	C-S型 ・中小規模データ向け(1取引明細が10MB未満) ・国内取引のみ ・通信路セキュリティ機能 ⇒SSL通信、HTTPベーシック認証など	⇒運用形態はJCAと同じだが、業務との連携は十分に検証が必要。 ⇒セキュリティ対策としてSSLクライアント認証とベーシック認証があるが、SSLクライアント認証は、クライアント企業には負担が大きい。
ebXML/MS	S-S型 ・大容量データ向け(1取引明細が10MB以上) ・国内外取引が可能 ・通信路セキュリティ:SSL通信をサポート。 ・通信設定を記述するCPAを利用可能。	⇒流通BMSで配布されるCPAテンプレートを利用し、CPA(通信設定の定義情報)を作成可能。 ⇒CPAは、原則として、導入の働きかけ側がCPA作成者となり、作成・配布・管理の担当を推奨されている。
EDIINT AS2	S-S型 ・大容量データ向け(1取引明細が10MB以上) ・主に海外取引 ・メッセージセキュリティ機能:メッセージ署名をサポート ・通信路セキュリティ:SSL通信をサポート ・通信時に、サーバ機能により、メッセージを圧縮して送信し、受信側で展開することが可能	⇒高い信頼性とセキュアなEDI実現のために、メッセージ署名やメッセージアック(MDN)がある。 ⇒メッセージ署名用証明書の事前交換なしでの実施が推奨されている。(負担軽減)



## 2. XML電文を読み解くカギ

### ① 標準フォーマットとしてXML採用



標準のフォーマットが採用されるため、これまで取引先毎に区別していたファイルフォーマットを、ツールの機能(共通のルール)で変換することが可能になる。

⇒ スキーマ定義書とメッセージ項目一覧を活用すればXMLも対応可能！

## 2. XML電文を読み解くカギ

### ② XML電文の構造とその解読法

**XMLスキーマの定義書をみれば、構造体とその項目名が一目瞭然！！**

**XMLタグ**

```

<documentStructure>
  <payer>
    <code>01</code>
    <gln>49010100001</gln>
  </payer>
  <buyer>
    <code>01</code>
    <gln>4901010000011</gln>
    <name>(株)スーパー愛美</name>
    <name_sbcs>スーパーアイ</name_sbcs>
  </buyer>
  <order>
    <tradeID>
      <tradeNumber>1000001</tradeNumber>
    </tradeID>
    <parties>
      <shipTo>
        <code>99983499</code>
        <gln>4901010934011</gln>
        <name>埼玉センター</name>
        <name_sbcs>サイタマセンター</name_sbcs>
      </shipTo>
    </parties>
  </order>
</documentStructure>
  
```

Microsoft Excel - Schema\_Order\_20090219.xls

階層	名前	番号	名称
3			流通ビジネスメッセージ標準
4	L1 L2 L3 L4 L5 L6 L7 L8 L9		
5	sh:StandardBusinessDocument		
6	sh:StandardBusinessDocumentHeader		
7	sh:HeaderVersion		
49	payer		<支払企業>
50	code	21	支払法人コード
51	gln	22	支払法人GLN
52	name		支払法人名称
53	name sbcs		支払法人名称カナ
54	buyer		<発注者>
55	code	23	発注者コード
56	gln	24	発注者GLN
57	name	25	発注者名称
58	name sbcs	26	発注者名称カナ
59	order		<取引>
60	tradeID		
61	tradeNumber	121	取引番号(発注・返品)
62	additionalTradeNumber	122	取引付属番号
63	parties		
64	shipTo		<直接納品先>
65	code	27	直接納品先コード
66	gln	28	直接納品先GLN
67	name	29	直接納品先名称
68	name sbcs	30	直接納品先名称カナ
69			<最終納品先>

## 2. XML電文を読み解くカギ

### ③ 流通BMSメッセージ項目の意味内容の把握

Microsoft Excel - Schema\_Order\_20090219.xls

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	P	Q
3															
4		L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	L9				番号	名称
5		sh:StandardBusinessDocument													
6		sh:StandardBusinessDocumentHeader													
7		sh:HeaderVersion													
49		payer													
50		code													
51		gln													
52		name													
53		name sbcs													
54		buyer													
55		code													
56		gln													
57		name													
58		name sbcs													
59		order													
60		tradeID													
61		tradeNumber													
62		additionalTradeNumber													
63		parties													
64		shipTo													
65		code													
66		gln													
67		name													
68		name sbcs													
69		name sbcs													

04\_平成20年度メッセージ別項目一覧(基本形・集計表修正).pdf - Adobe Reader

IV. メッセージ別説明 1. メッセージ別項目一覧

(1) 発注メッセージ

メッセージ項目番号	分類	項目名 1	項目名 2
1	1. 発注メッセージ	送着者ID	
2	2. 発注メッセージ	送着者ID発行元	
3	3. 発注メッセージ	受着者ID	
4	4. 発注メッセージ	受着者ID発行元	
5	5. 発注メッセージ	バージョン	
6	6. 発注メッセージ	インスタンスID	
7	7. 発注メッセージ	メッセージID	
8	8. 発注メッセージ	メッセージID	
9	9. 発注メッセージ	メッセージID	
10	10. 発注メッセージ	メッセージID	
11	11. 発注メッセージ	メッセージID	
12	12. 発注メッセージ	メッセージID	
13	13. 発注メッセージ	直接受着者ステーションアドレス	
14	14. 発注メッセージ	直接受着者ステーションアドレス	
15	15. 発注メッセージ	取引番号	
16	16. 発注メッセージ	取引番号	
17	17. 発注メッセージ	取引番号	
18	18. 発注メッセージ	取引番号	
19	19. 発注メッセージ	取引番号	
20	20. 発注メッセージ	取引番号	
21	21. 発注メッセージ	発注者コード	
22	22. 発注メッセージ	発注者GLN	
23	23. 発注メッセージ	発注者名称	
24	24. 発注メッセージ	発注者名称カナ	
25	25. 発注メッセージ	発注者名称カナ	
26	26. 発注メッセージ	発注者名称カナ	
27	27. 発注メッセージ	取引番号	
28	28. 発注メッセージ	取引番号	
29	29. 発注メッセージ	取引番号	
30	30. 発注メッセージ	取引番号	

スキーマ定義書の項目番号と同じ  
メッセージ項目一覧のメッセージ項目番号を参照！！

次頁  
参照

## 2. XML電文を読み解くカギ

04\_平成20年度メッセージ別項目一覧(基本形・集計表修正).pdf - Adobe Reader

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 文書(O) ツール(T) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

印刷

ページ: 1 / 60

# 該当するメッセージ項目番号から、その項目の意味内容が確認できます！！

IV. メッセージ別説明 1. メッセージ別項目一覧

(1) 発注メッセージ

項目番号	分類	項目名	項目番号	項目名	項目番号	項目名	項目番号	項目名	項目番号	項目名
1	メッセージ	メッセージ	11	メッセージ	21	メッセージ	31	メッセージ	41	メッセージ
2	メッセージ	メッセージ	12	メッセージ	22	メッセージ	32	メッセージ	42	メッセージ
3	メッセージ	メッセージ	13	メッセージ	23	メッセージ	33	メッセージ	43	メッセージ
4	メッセージ	メッセージ	14	メッセージ	24	メッセージ	34	メッセージ	44	メッセージ
5	メッセージ	メッセージ	15	メッセージ	25	メッセージ	35	メッセージ	45	メッセージ
6	メッセージ	メッセージ	16	メッセージ	26	メッセージ	36	メッセージ	46	メッセージ
7	メッセージ	メッセージ	17	メッセージ	27	メッセージ	37	メッセージ	47	メッセージ
8	メッセージ	メッセージ	18	メッセージ	28	メッセージ	38	メッセージ	48	メッセージ
9	メッセージ	メッセージ	19	メッセージ	29	メッセージ	39	メッセージ	49	メッセージ
10	メッセージ	メッセージ	20	メッセージ	30	メッセージ	40	メッセージ	50	メッセージ
11	メッセージ	メッセージ	21	メッセージ	31	メッセージ	41	メッセージ	51	メッセージ
12	メッセージ	メッセージ	22	メッセージ	32	メッセージ	42	メッセージ	52	メッセージ
13	メッセージ	メッセージ	23	メッセージ	33	メッセージ	43	メッセージ	53	メッセージ
14	メッセージ	メッセージ	24	メッセージ	34	メッセージ	44	メッセージ	54	メッセージ
15	メッセージ	メッセージ	25	メッセージ	35	メッセージ	45	メッセージ	55	メッセージ
16	メッセージ	メッセージ	26	メッセージ	36	メッセージ	46	メッセージ	56	メッセージ
17	メッセージ	メッセージ	27	メッセージ	37	メッセージ	47	メッセージ	57	メッセージ
18	メッセージ	メッセージ	28	メッセージ	38	メッセージ	48	メッセージ	58	メッセージ
19	メッセージ	メッセージ	29	メッセージ	39	メッセージ	49	メッセージ	59	メッセージ
20	メッセージ	メッセージ	30	メッセージ	40	メッセージ	50	メッセージ	60	メッセージ
21	メッセージ	メッセージ	31	メッセージ	41	メッセージ	51	メッセージ	61	メッセージ
22	メッセージ	メッセージ	32	メッセージ	42	メッセージ	52	メッセージ	62	メッセージ
23	メッセージ	メッセージ	33	メッセージ	43	メッセージ	53	メッセージ	63	メッセージ
24	メッセージ	メッセージ	34	メッセージ	44	メッセージ	54	メッセージ	64	メッセージ
25	メッセージ	メッセージ	35	メッセージ	45	メッセージ	55	メッセージ	65	メッセージ
26	メッセージ	メッセージ	36	メッセージ	46	メッセージ	56	メッセージ	66	メッセージ
27	メッセージ	メッセージ	37	メッセージ	47	メッセージ	57	メッセージ	67	メッセージ
28	メッセージ	メッセージ	38	メッセージ	48	メッセージ	58	メッセージ	68	メッセージ
29	メッセージ	メッセージ	39	メッセージ	49	メッセージ	59	メッセージ	69	メッセージ
30	メッセージ	メッセージ	40	メッセージ	50	メッセージ	60	メッセージ	70	メッセージ
31	メッセージ	メッセージ	41	メッセージ	51	メッセージ	61	メッセージ	71	メッセージ
32	メッセージ	メッセージ	42	メッセージ	52	メッセージ	62	メッセージ	72	メッセージ
33	メッセージ	メッセージ	43	メッセージ	53	メッセージ	63	メッセージ	73	メッセージ
34	メッセージ	メッセージ	44	メッセージ	54	メッセージ	64	メッセージ	74	メッセージ
35	メッセージ	メッセージ	45	メッセージ	55	メッセージ	65	メッセージ	75	メッセージ
36	メッセージ	メッセージ	46	メッセージ	56	メッセージ	66	メッセージ	76	メッセージ
37	メッセージ	メッセージ	47	メッセージ	57	メッセージ	67	メッセージ	77	メッセージ
38	メッセージ	メッセージ	48	メッセージ	58	メッセージ	68	メッセージ	78	メッセージ
39	メッセージ	メッセージ	49	メッセージ	59	メッセージ	69	メッセージ	79	メッセージ
40	メッセージ	メッセージ	50	メッセージ	60	メッセージ	70	メッセージ	80	メッセージ
41	メッセージ	メッセージ	51	メッセージ	61	メッセージ	71	メッセージ	81	メッセージ
42	メッセージ	メッセージ	52	メッセージ	62	メッセージ	72	メッセージ	82	メッセージ
43	メッセージ	メッセージ	53	メッセージ	63	メッセージ	73	メッセージ	83	メッセージ
44	メッセージ	メッセージ	54	メッセージ	64	メッセージ	74	メッセージ	84	メッセージ
45	メッセージ	メッセージ	55	メッセージ	65	メッセージ	75	メッセージ	85	メッセージ
46	メッセージ	メッセージ	56	メッセージ	66	メッセージ	76	メッセージ	86	メッセージ
47	メッセージ	メッセージ	57	メッセージ	67	メッセージ	77	メッセージ	87	メッセージ
48	メッセージ	メッセージ	58	メッセージ	68	メッセージ	78	メッセージ	88	メッセージ
49	メッセージ	メッセージ	59	メッセージ	69	メッセージ	79	メッセージ	89	メッセージ
50	メッセージ	メッセージ	60	メッセージ	70	メッセージ	80	メッセージ	90	メッセージ
51	メッセージ	メッセージ	61	メッセージ	71	メッセージ	81	メッセージ	91	メッセージ
52	メッセージ									

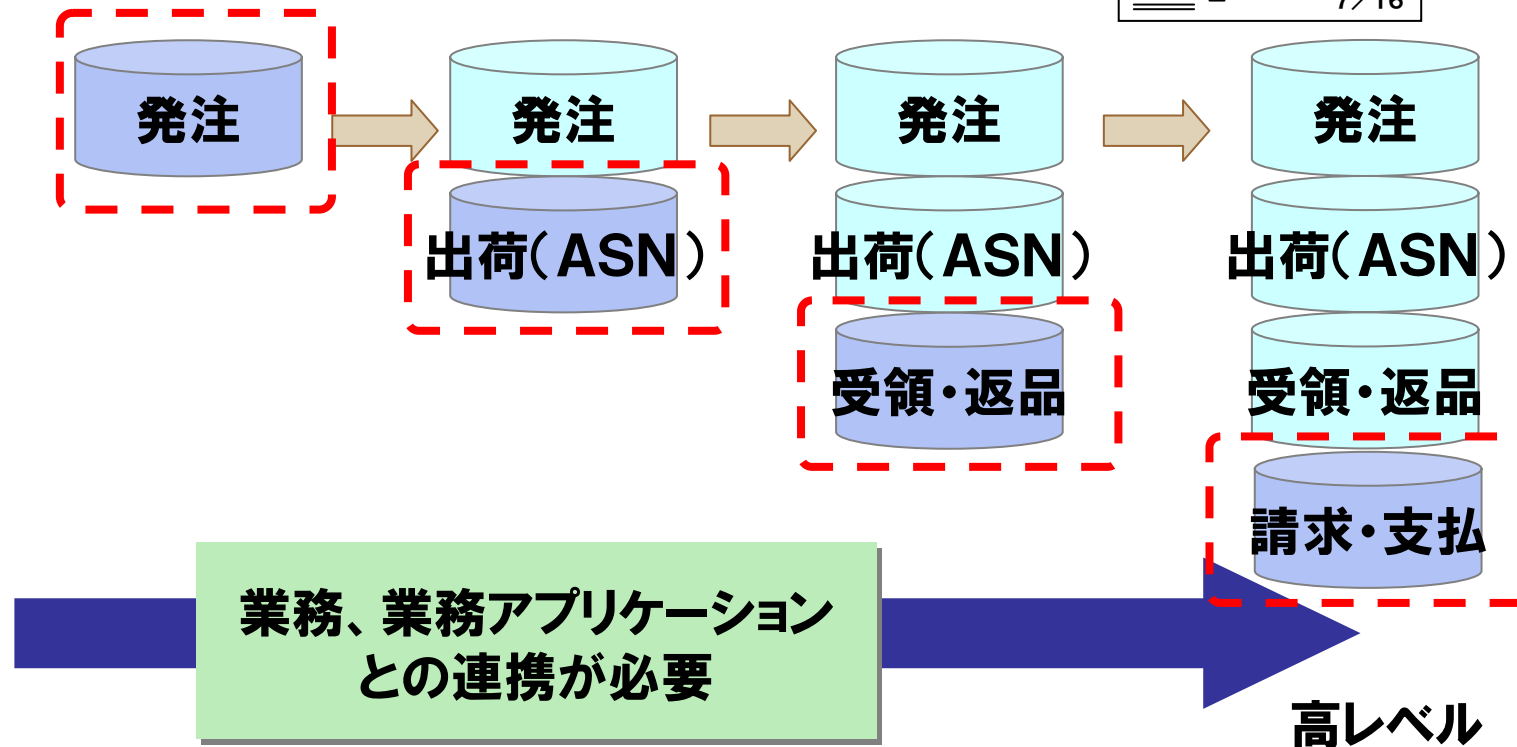
### 3. 業務フローの整理

#### ① EOSからEDIへ

流通BMSでは、発注～決済までを電子的に処理することにより、紙の仕入伝票がなくとも商取引を可能とした。

現行業務フローとの対比、変更

標準化して、業務を刷新(伝票レス、検品レス)





### 3. 業務フローの整理

#### ② 業務との連携検討

##### (1) バックエンド、基幹システムとの連携方法の検討

流通BMSは既存の業務を大幅に変更することなく、移行が行えるように標準が制定されています。

→部分的に適用していく場合、既存の従来型EDIの並行運用も考慮。

→流通BMSと既存の自社の方式に違いが無いか、影響も含め調査。

##### (2) 流通BMS導入後の現場の運用方法検討

関連システムの切換なども視野に入れた対応計画の策定がポイントです。

→伝票レス、帳票レス、検品レス等を実施するか

※高度な在庫精度と検品体制が必要。

※これらに対応するには、電子帳簿保存法、消費税法の考慮。

## 4. EDIシステムの選定ポイント(例)

### ①流通BMS対応のEDIシステムに必要なとなる機能

(1) 流通BMSに対応したEDIシステムでは次のような機能が必要

- ・「通信機能」  
ebXML MS、AS2、JX手順に対応した通信機能
- ・「送受信管理」  
送受信の実行管理(ジョブ管理等)
- ・「フォーマット変換機能」  
XMLと社内フォーマットの変換機能
- ・「基幹システム連携機能」  
基幹システムとの連携機能

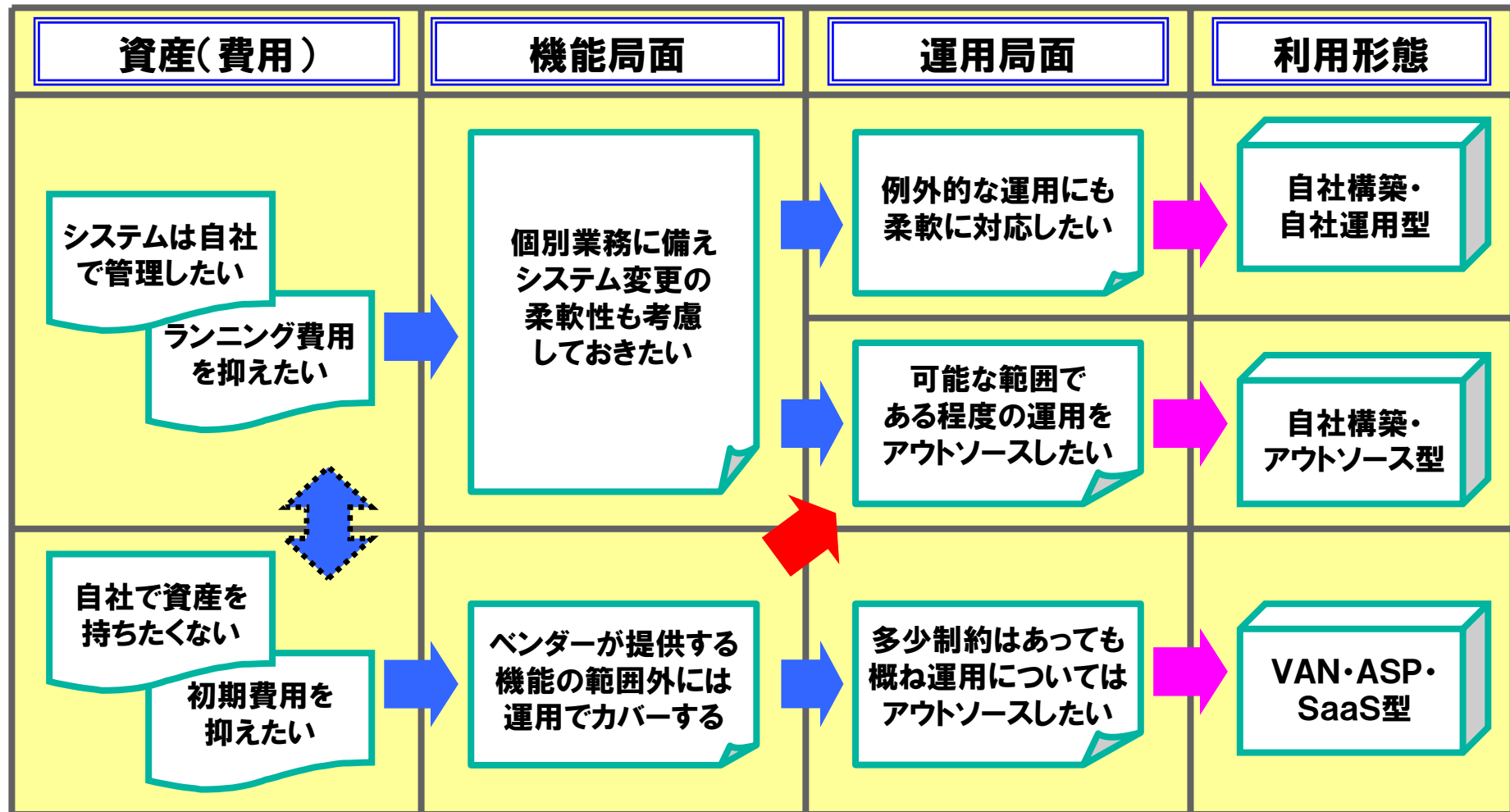
(2) 自社での状況にあわせ、どのようなパッケージソフトを準備するか、または、自社で開発するのか等を検討する。



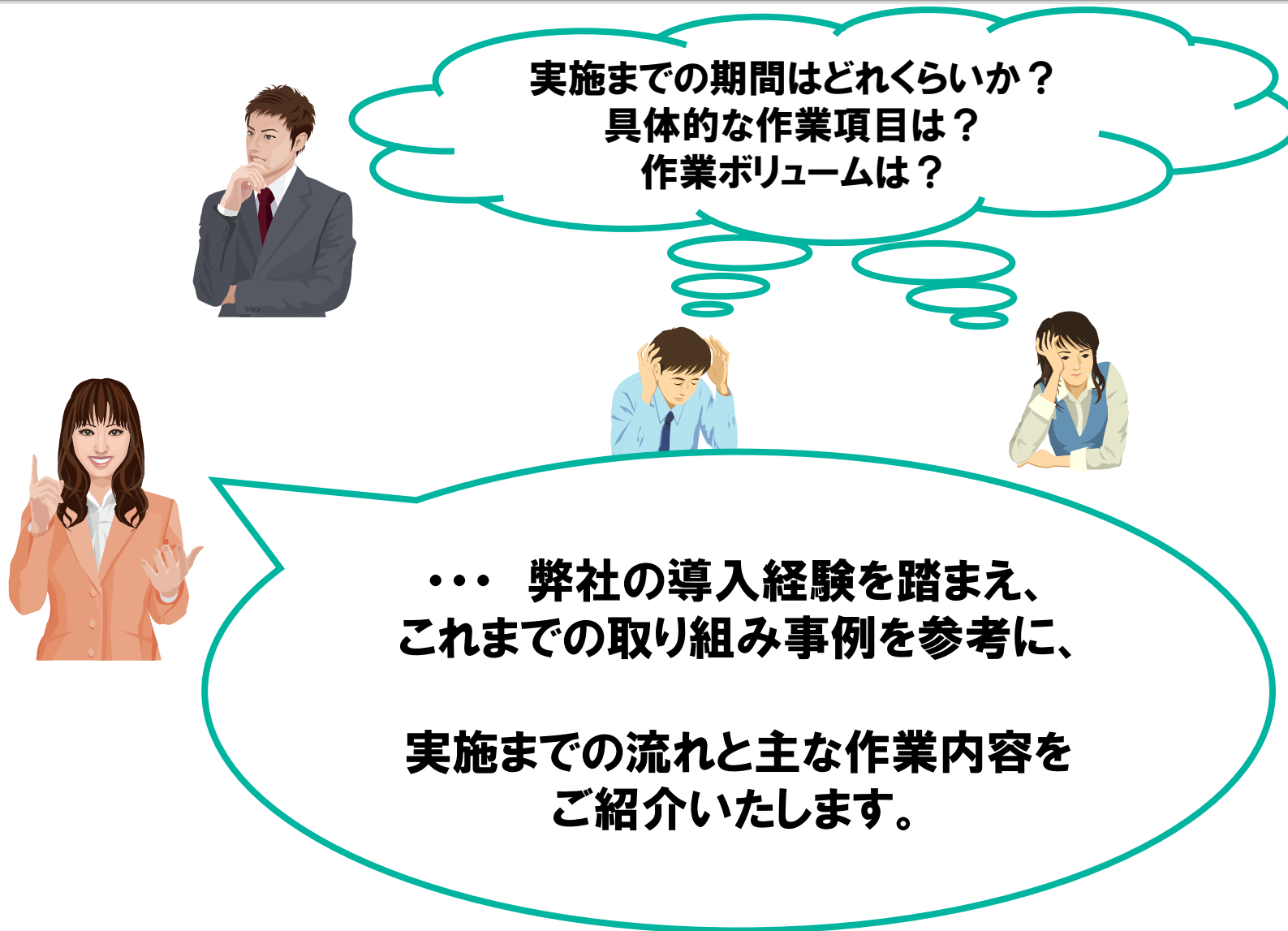
## 4. EDIシステム選定のポイント(例)

### ② 自社構築型とサービス利用型の選定方法(例)

※何をキーポイントにするか、また優先順などにより選定基準は変わります。



### Ⅲ. スムーズな導入のために(導入手順の概要)



# 1. 流通BMSの導入プロセス

## ①導入検討

流通BMS適用判断の検討、  
投資対効果の算出、見積

## ②システム形態の選定

利用形態の確認、処理モデルの選択、  
プロトコルの選択、マッピング仕様の整理

## ③インフラ構築

GLNの取得、電子証明書の取得、  
ネットワーク構築、業務システム改修、

## ④システム構築

EDIシステムの導入、マッピング作業、  
環境設定、疎通確認、教育

## ⑤接続テスト

テスト計画立案、移行方針の策定、  
テスト環境構築、取引先とのテスト実施

## ⑥移行・本番・展開

並行稼働、新システムへの切り替え、  
並行運用停止、新環境追加

※参考資料

流通BMS導入ガイド(流通システム開発センター編)

## ⑦取引先との各種調整

マッピング仕様・  
協定シートの確認、  
移行方法、テスト  
手順等の説明、  
説明会の開催、  
契約関連 など

## ⑧運用管理

メッセージ・スキーマ  
のバージョン管理、  
電子証明書の運用、  
システム障害時対応

## 2. 流通BMS実施までの主な流れ(例)

### 全体フロー(導入を働きかける側のケース)



※本スケジュールは事例サンプルです。実施スコープや展開規模、また実行後の進捗等により変更となる場合があります。

### 3. フェーズ別作業内容(概要)

フェーズ	主な作業項目の概要	検討ポイント(例)
導入検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>①流通BMSと従来手順との違いの理解</li> <li>②流通BMSの対象範囲とFit &amp; Gap</li> <li>③システム面における検討</li> <li>④取引先との調整</li> <li>⑤コストの算出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 自社業務と流通BMSとの適合判定</li> <li><input type="checkbox"/> 自社システムの流通BMSメッセージへの対応度合い確認</li> <li><input type="checkbox"/> 自社システムの改修範囲と規模算定</li> </ul>
システム形態の選定	<ul style="list-style-type: none"> <li>①利用形態の確認</li> <li>②処理モデルの選択</li> <li>③通信プロトコルの選択</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> EDIシステムの要件、外部委託範囲の洗い出し・整理</li> <li><input type="checkbox"/> タイプ、モデルの決定 ⇒データ量、適用業務範囲など</li> </ul>
インフラ構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>①GLN、電子証明書の手配</li> <li>②マシン構築・ネットワーク構築</li> <li>③既存システムの改修</li> <li>④セキュリティ対策の実施</li> <li>⑤システム／ネットワーク障害時の対策の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 基幹システム改修ボリュームに応じたプロジェクトの管理</li> <li><input type="checkbox"/> インターフェース部分の開発検討 (柔軟性、拡張性、安全性)</li> <li><input type="checkbox"/> セキュリティポリシーに基づく環境構築</li> <li><input type="checkbox"/> 障害時のバックアップ環境、対応方針、体制等の準備</li> </ul>

### 3. フェーズ別作業内容(概要)

フェーズ	主な作業項目の概要	検討ポイント(例)
システム構築	①EDIシステムの導入 ②マッピング作業 ③通信テスト ④教育・引継ぎ	<input type="checkbox"/> XMLの標準メッセージと現行レイアウトの対応付け(必須／任意項目) ⇒任意項目の扱いなど <input type="checkbox"/> 禁則文字の対応等への考慮 <input type="checkbox"/> 運用手順、障害時対策等も含め検討
接続テスト	①テスト計画立案 ②テスト方法・手順の決定 ③取引先との調整 ④接続テスト実施・評価	<input type="checkbox"/> 一連の業務に対する接続確認の実施 ・パターン1:通信環境の相互接続 ・パターン2:メッセージ送受信の相互接続 ・パターン3:業務システム間の接続 <input type="checkbox"/> テスト内容、進め方、体制等の調整
移行・本番・展開	①並行稼動・移行方針の検討 ②新システムへの切り替え ③並行運用停止 ④展開方針・手順の確立 ⑤展開計画の策定・取引先の調整	<input type="checkbox"/> 本番開始の基準、旧システム停止基準 <input type="checkbox"/> 並行運用にて新旧システムの処理結果の妥当性を確認 <input type="checkbox"/> 障害発生時の万が一の切り替えに備えた切り戻し手順の明確化

### 3. フェーズ別作業内容(概要)

フェーズ	主な作業項目の概要	検討ポイント(例)
取引先との調整	<ul style="list-style-type: none"><li>①流通BMS実装のための前提条件の確認</li><li>②流通BMSの新フォーマットと既存手順のフォーマットとの対応付け</li><li>③EDI取引における相互設定確認</li><li>④取引先説明会の実施</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 共通確認シート</li><li><input type="checkbox"/> マッピングシート</li><li><input type="checkbox"/> 通信パラメータ協定シート<ul style="list-style-type: none"><li>・EDI基本情報協定</li><li>・EDI通信パラメータ協定</li></ul></li></ul>
運用上の留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>①メッセージ、スキーマのバージョン管理</li><li>②電子証明書の運用</li><li>③システム障害時の対応</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> メッセージ種の追加等への対応方法</li><li><input type="checkbox"/> バージョンアップ時の切り替え方法</li><li><input type="checkbox"/> 複数スキーマの管理方法</li><li><input type="checkbox"/> 送受信時間帯、連絡先等の確認</li></ul>



# まとめ



導入を進めるにあたり、  
次の3点にポイントを要約しました。

- ✓ 流通BMSについて、十分理解することが必要
  - 「導入ガイドライン」、「運用ガイドライン」の理解
  - 標準を採用することで、効率化を実現
- ✓ 新たな技術への対応(インターネット、XML)
  - システム形態、処理モデル、通信プロトコルの特徴・違いの理解
  - インターネット環境の対応検討、XML標準への対応
- ✓ 流通BMSは、業務プロセス全体の標準化
  - 自社の運用やシステムの見直しが必要。
  - 現行システムの機能をそのまま置き換えるだけでは本来のメリットが得られない。

## 付録 EDIAI Serverの概要(ご参考)



EDIAI Serverは、  
5つの安心をご提供いたします。

その1. 最新技術に対応できる『安心』

その2. スムーズにサプライチェーンが構築できる『安心』

その3. さまざまなニーズにお応えできる『安心』

その4. 拡張性・運用性も配慮された『安心』

その5. グローバルなビジネス展開にも『安心』

# 1. EDIAI Serverの主要機能

取引先毎に異なる形式、新しく規格制定された標準フォーマットに対応しなければならない。

- UN/EDIFACT (国際標準)
- CII/EIAJ (電機・機械業標準)
- 企業独自のフォーマット
- **XML(次世代EDI標準)**
- JEDICOS (流通業界標準)
- CII/JTRN (物流業界標準)
- ANSI X.12(北米標準)
- RosettaNet (IT・EC業界標準)
- SAP/R3(IDOC形式)
- **流通ビジネスメッセージ標準(流通BMS)**

etc, ...

取引先毎に異なった通信手順や、インターネットEDI(XML)に対応しなければならない。

- 全銀TCP/IP手順
- 全銀BSC手順
- JCA手順
- FTP手順(Server機能)
- FTP手順(Client機能)
- NISMAIL手順(独自手順)
- SMTP/POP3クライアント
- HTTP、HTTPS(ベース機能)
- FAX配信
- **ebXML/MS**
- **JX手順**
- **EDIINT AS2**

etc, ...

自社業務アプリケーションとの連携を考慮しなければならない。  
『システム統合とSCM最適化』

- NISMAIL (蓄積交換型ファイル転送)との連携  
→ HP-UX、Solaris、Linux、Windows、AS/400、ACOS-4、ACOS-2
- FTPクライアント、サーバ連携
- MQインタフェース連携
- DB連携 (ODBC経由での接続)
- AP連携ツール (APIが利用可能なツール)

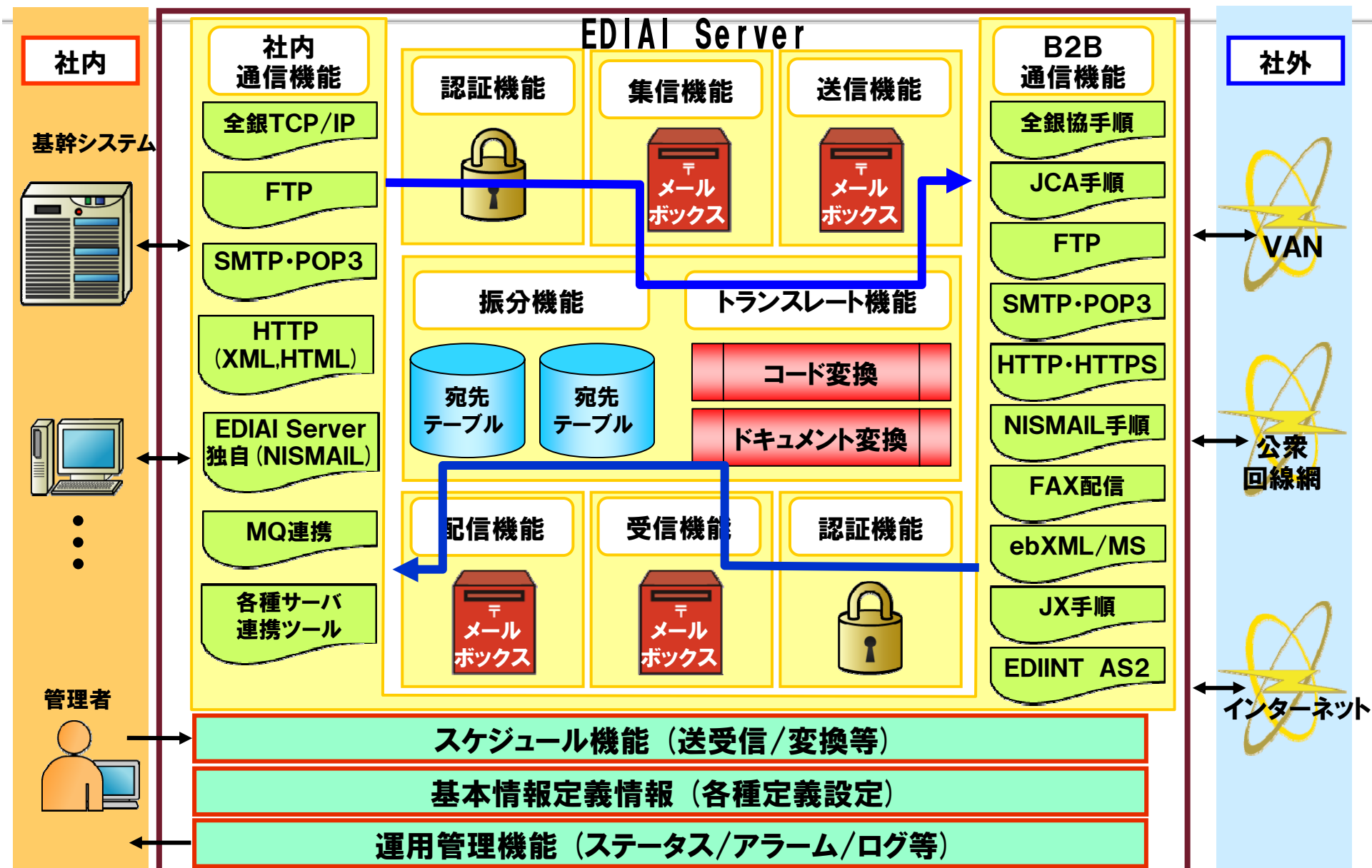
etc, ...

**EDIAI Server** は  
このような問題に対応した  
ソリューションです。

※ベーシック系手順はUST(セイコープレジジョン株式会社)と連携  
※FAX配信は、FAXPress(マクニカネットワークス株式会社)と連携

■:標準機能    ●:オプション機能

## 2. EDIAI Serverの機能構成イメージ



ご清聴ありがとうございました。



**NEC** NEC情報システムズ



人と地球にやさしい情報社会を  
イノベーションで実現する  
グローバルリーディングカンパニー

NECグループビジョン2017

Empowered by Innovation

**NEC**